

2017年3月11日のメッセージ

震災から6度目の冬、
立ち入りができない地域で、津波で尊い命を奪われたお嬢さんの遺骨を見つけた父親の悔しさ。
「原発事故がなければ、もっと早く見つけてあげられた」
お亡くなりになられた人たちのことを、残された人々の思いを、私たちは忘れてはなりません。

東日本大震災と東京電力福島第一原発事故から6年。
避難地域の解除が大幅に進み、小高駅以北のJR常磐線が再開し、
津波や地震で被災したインフラが着実に復旧しています。
福島県沖では魚の試験操業が拡大し、
生産者が誇りをもって育ててきた県産の農作物から、放射性物質の基準値を超えるものは1件も出ていません。
日本酒の鑑評会で金賞受賞数が4年連続日本一となり、また、県内の温泉が全国的な高評価を受けるなど、
明るい光も強まりを見せています。

一方、未だに8万人近くの県民が避難生活を続けています。
復興の進展から取り残され、孤独感を抱いている人もいます。
廃炉・汚染水、なくなる風評被害と震災記憶の風化、県内全域での人口減少。

ふくしまは今、光と影、明るい部分と課題が山積した部分とが混じり合っている状況にあります。
このような中でも、
「希望」という一筋の光を示していくことが私たちの使命であります。

県内原発の全基廃炉や再生可能エネルギー先駆けの地が実現し、
復興への願いがこもった「メイドインふくしま」が国内外の様々な分野で広がり、
次代を担う子どもや若者、そして高齢者にも笑顔があふれる、ふるさとふくしまを目指し、
東京オリンピック・パラリンピックが開かれる2020年までに、
全世界の人々に復興が進んでいる姿を見ていただきたい。

「災害に見舞われたふくしまだが、あなた方は頑張ってここまでやってきた」
「花がきれい食べ物も果物もおいしく、ふくしまは大好きなところだから、今度は誰かを連れて行く」
海外の皆様からの温かい言葉で、私たちの方が元気をもらいました。
ふくしまを応援してくださる人たちへの感謝の思いを胸に、
私たちは、ふくしまの未来を描いていきます。

「消費者に安心してもらえる食べ物を作りたい。挑戦しないうちにあきらめるのは絶対に嫌だった」
避難地域でシイタケ栽培を再開させた女性農業者の決意の言葉です。
それぞれの夢や希望を抱き、立ち上がり、
困難で苦しい時でも、諦めずにチャレンジし続ければ、必ず道は拓けます。
失敗をおそれず果敢に挑戦をし続ける、そうした流れを大きなうねりへと高めていくことで、
ふくしまの復興だけでなく、
日本や世界への貢献につながる復興を必ず成し遂げることができると信じています。
私たちみんなで力を合わせて、
復興に向けて大きく羽ばたくふくしま、
生まれてくる子どもたちにとっても誇りに思える新しいふくしまを創り上げていきましょう。

平成29年3月11日

福島県知事 内堀雅雄

出典 「原発事故がなければ、もっと早く見つけてあげられた」
平成28年12月25日 福島民友新聞掲載、平成28年12月26日 福島民報新聞掲載

「災害に見舞われたふくしまだが、あなた方は頑張ってここまでやってきた」
「花がきれい食べ物も果物もおいしく、ふくしまは大好きなところだから、今度は誰かを連れて行く」
平成28年11月25日 知事と福島県旅館ホテル生活衛生同業組合青年部との意見交換会での発言

「消費者に安心してもらえる食べ物を作りたい。挑戦しないうちにあきらめるのは絶対に嫌だった」
平成28年7月7日 毎日新聞掲載

